



先導する「技術支援機関」を目指して

鹿児島県工業技術センター
所長 清藤 純一

このたび、4月1日付けで当センター所長を拝命いたしました。前任者の廣末所長同様、よろしくお願い申し上げます。

当センターは、大正12年鹿児島市に工業試験場が設立されて以来、70有余年、幾多の変遷を経て、急速に進展する工業技術の高度化、先端化、複合化に対応するため、それまで鹿児島市にあった工業試験場、機械金属技術指導センター及び木材工業試験場の工業系3試験研究機関を再編統合し、昭和62年12月1日に設立され、満11年が経過しました。

この間、研究開発・技術支援を両輪に、自らのポテンシャルを高めつつ、産学官連携による国などの提案型研究事業にも積極的に取り組み、一方で「知的所有権センター」の設置、産学官共同研究施設「システム技術開発センター」、企業の技術開発を支援する「R&D支援センター」を整備するなどソフト・ハード両面の機能を強化しつつ、本県工業振興に寄与してまいりました。

しかし、近年産業の空洞化や国際競争の激化など、地域企業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、地域経済の活力を維持・発展させていくには、市場ニーズを捉えた独自技術による高付加価値製品の開発や新分野への展開、新規創業を目指すベンチャー企業の育成等が極めて重要な課題となっており、本県工業振興の一翼を担う当センターに対する期待はますます高まっています。

このような課題に対応していくには、県内製造業のほぼ全体をカバーする試験研究機関として、今後も技術相談、依頼分析、情報提供など質の高い技術支援を行い、一方で産業界のニーズを把握し、自らのポテンシャルを生かす「異業種共生」による技術総合力、産学官連携のコーディネート

機能を発揮し、地域産業の高付加価値化、地域資源の高度利用、新産業・新分野の創出につながる新技術・新製品の研究開発を進め、県内中小企業の先導役を果たせる「技術的よりどころ」となれるよう努めなければならないと考えます。

このため、今後も研究員の学会参加、国公設研や大学等国内外の諸研究機関等への研修派遣による資質向上や先進的な研究開発に対応できる施設整備に努め、そして産・学との交流をより一層促進し、産業界のニーズに的確に応えられるよう技術支援体制を強化してまいります。

県では、本年度県総合基本計画第3期実施計画の目玉の1つである「起業化支援センター」を立ち上げ、県内企業の研究開発から事業化まで一体的・総合的に支援する体制を構築します。当センターは、公設試として県内企業との間に長年培った信頼関係があり、企業のニーズに応え、センター内外のシーズをマッチングさせることや企業間、或いは大学、国研等との橋渡し役として、産学官連携における研究交流・共同研究推進等のコーディネータ役を果たすことも重要な役目であります。

今後、国、県行政機関、諸産業支援機関、県工業倶楽部など業界団体、各企業の皆様のご支援、ご協力をいただき「うるおいと活力に満ちた鹿児島の創造」の最も重要な柱の1つである本県工業の振興を推進するため、職員一同最善の努力をしていきたいと思っております。

これからも皆様にとって頼りがいのある工業技術センターとして、なお一層活用されますことをお願い申し上げます。企業各位の今後益々の御発展を心より祈念いたしまして、ご挨拶といたします。